



祭典合唱団ニュース ひろしま

NO. 14
2021年11月21日
発責：実行委員会

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます
よろしくお願いま～す！

井上智才さん (S)



とにかく歌が大好きです。三原の実家にいた娘の頃はピアノを弾いていましたが、結婚して広島へは持ってこれませんでしたから、こちらに来てからは歌だけです。広島に来て原爆のことや被爆者のことを勉強して、歌で平和な世の中が作っていかれたらいいと思って活動に参加しています。

亡くなった主人も歌はやっておけよと言ってくれました。

広島合唱団に娘二人と一緒に入って20年くらいは歌ってきました。だから日本のうたごえ祭典には北海道から沖縄までいろいろな所に行きました。歌があれば元気でおられます。

虹のコーラスにも入っていて、毎年8月6日の日は必ず参加しています。戦争や核兵器のない世界、全世界が仲良くやって行けたらいいと思っています。虹のコーラスが平和公園でやっている「6日の行動」にはできるかぎり参加しています。

今回の祭典合唱団では大好きな「アメイジング・グレイス」、オーケストラで歌う「大地讃頌」、「広島 愛の川」、それと女声合唱団の「母さんたちの贈りもの」「リメンバー」を歌います。とっても楽しみです。



前夜の交流会の様子

昔青年だったという方も、是非「広島へ」「HEIMAの鐘」と一緒に歌い、感動を分かち合えるステージを作りましょう！
(記 隅広 智子さん)



山本高栄先生

11月14日(日)午前、中央公民館で青年ステージの練習会を本番指揮者

である山本高栄さんを愛知からお呼びして行いました。青年の練習会は10月14日(三上和伸さん指揮)に引き続き2回目でした。前日には夕方から集まり、他県3人と広島から3人、そして指揮者の山本さんとでお好み焼きを食べながら交流も行いました。



青年のステージ練習風景

山本先生には事業部のグッズを全種類買っていたいただきました。山本さんには事業部のグッズを全種類買っていたいただきました。地元の青年からは、豊田ミュージカルに関わっている仲間10名を含め13名が参加してくれました。また、全国の青年(愛知・京都・愛媛から各1名・大阪より2名・ブラズ子どもさん)もこの練習会に参加し、フレッシュな雰囲気練習することができました。

青年のステージは上手に歌わなくても、少しくらい音が外れても、間違えても大丈夫、みんなでフォローしあい、楽しかったねと言合えるステージができると成功だと思っています。今回の練習の熱量を祭典まで持続させたいと思いますが、まだ目標の組織数まで達していません。

青年のステージ練習会を開催

山本高栄先生迎え

山本先生の指導はとても分かりやすく、声の出し方・息の使い方・言葉を伝えるための意識の仕方など、面白く、わかりやすい表現で教えてくださり、あっという間の2時間でした。



参加した青年の仲間たち

内田陽一郎先生の指揮

「広島 愛の川」 〜世界に向かっ ての 平和の訴え

昼食休憩1時間の後、内田陽一郎先生の指導で「広島 愛の川」のレッスンが本番ピアノ伴奏者・迫千月さんで行われました。内田先生が指導しておられる合唱団からも10名以上の方が新しく参加してくださいました。

内田陽一郎先生は「うたごえ合同合唱団のみなさまへ」というA3の用紙を事前に準備され「広島 愛の川」に込められ



内田陽一郎先生

た「はだしのゲン」の作者・中沢啓治さんの原動力を「ゲン」のテーマと同じと解説されました。個人的にも「創作オペラ・はだしのゲン」の主

人公ゲンを演じて親しかった中沢啓治さん一家の悲劇の家族史にも触れられて、詩に込められた「原爆（ピカ）への怒り・憎しみ」を、「広島 愛の川」では「怒り、悲しみ、優しさ」と表現し、広島

の心が世界に向かっの平和の訴えとして伝播してゆき、「語ろう、伝えよう、誓おう」と使命感に溢れる詩であることを理解して歌うことを求められています。レッスンの中でも歌詞の言葉を理解するために二度声に出して朗読しました。ひとりひとりが感情をこめて歌うことの重要性、「平和を希求して

〈戦後〉がいつまでも永遠に続きますよう願ってこの『広島 愛の川』の合唱に取り組んでいきましよう」と結んでおられ

ます。

100名以上の子どもたちも一緒に歌うステージです。

齊城英樹先生の指揮

オーケストラと歌う 「フインランディア」 〜希望をのせて

次にコンサート・ヒロシマIIでオーケストラと歌う「フインランディア」のレッスンを、齊城英樹先生の指導、ピアノ伴奏・三好敬子さんで行われました。

齊城先生は細かい音楽はオーケストラがやるか

ら、みなさんはおおらかに言葉を大切にしながら希望を歌って下さい、みなさんの心意気をオーケストラにのせて歌って下さいと言われ、緊張していた私たちの心がほぐれました。



齊城英樹先生

チケット普及もラストスパート

祭典まであと10日ばかりになりました。皆様のご協力により、コンサートヒロシマIとIIは、満席の見通しが見えてきました。が、PWCはまだ約半分です。コロナ禍のもとで苦勞して練習し、準備してきた私たちの平和へのメッセージを多くの方々に届けましょう。

全国の仲間も、広島を応援しようと頑張ってくださいています。

あとひとまわり、チケットを広げたいいただきますよう、よろしくお願い致します!!

編集後記

祭典合唱団の皆さんの交流の場になればと始めた祭典合唱団「ニュース」も、後もう一回発行を残すまでになりました。練習の成果を思い残すことなく発揮できることに頑張ります!!

高田龍治先生の指揮

青い空は 〜被爆者の皆さんと共に

歌を被爆者の皆さんと一緒に、作曲者の大西進先生の本番指揮で歌うことの素晴らしさを感じて歌っていきこうと熱く語られました。



高田龍治先生

最後に高田龍治先生の指導で「青い空は」の練習がありました。被爆者である吉野満江さん（No. 11の合唱団員紹介に登場）のうたごえ祭典にかける思いもお聞きし、創作されてから50年となるこの



吉野満江さん